



とうきょう すくわくプログラム

2024年度活動報告書

世田谷祖師ヶ谷大蔵雲母保育園



こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん

テーマ【 光 】

設定した理由・背景

・自園には大きな窓が環境的な特徴としてあり、自然と創り出される影や反射に目を奪われる子どもたちの姿や、「何だろう？」という疑問を感じることがあった。また、『丸、三角、四角』の集団遊びをしている際、さんかく屋根の影に惹かれている姿や室内の窓からこのテーマに設定した。

用意した環境設定

- ・園外保育環境としては自然豊かな公園を、保育室では影や反射を作り出す備品や玩具を用意した。
- ・購入物品：スクリーン、プロジェクター、カラーセロハン、

活動のあゆみ

- ・12月 9日 『しんごうのごうくん』読み聞かせ
園外活動の時間に『丸・三角・四角』の集団遊びを行う。
- ・1月 18日 戸外活動にて光と影の探索活動
- ・2月 3日 0歳児サンキャッチャーを保育室に設置
- ・2月 4日 ジュエル積み木で影遊びを行う。
- ・随時 手作りおもちゃの提供

✿探究活動の実績✿

園外保育中に「せんせい、さんかく」と指差す子どもの先を見ると、屋根の三角が地面に影として映っていた。その後、影探しが始まり、指差しや「あった」「これなあに」と、影に好奇心を持つ姿が見られた。生活の中でも園の窓が作り出す『光』や『反射』に興味を持ち遊びが広がっていたため、テーマに設定した。保育者は光が射す時間と場所の環境設定をして光の動きや反射を子どもと一緒に楽しみ、好奇心がもてるように積み木を光にかざしたり影を床に映し動かした。子どもたちは影の動きが面白く、追いかけたり掴んでみようとして夢中になる。影が見えなくなると「いなくなった」と影を探しだし、活動が進展した。保育者は「どこにかくれんぼしたのか探してみよう」と一緒に光と影探しを行うと、なぜ影が出来るのか考えようとする姿も見られた。「物の形や光の明るさによってカタチってどうなるだろう」「光の場所によって影も変わるのかな」と再度問いかけ、どうなるかを見つける探究活動が始まった。園外活動でも探求が広がるようになり、保育者と一緒に同じ形の影を見つけようとしていたり、面白い影がないか探索をしたり、友だちと一緒に様々な形の影を探して発見を楽しむようとする場面も見られた。水たまりに反射した光を見つけ、水たまりの動きで変化する光を不思議そうに触れようとする場面があり、保育者は、水たまりの光と影が作り出す不思議な空間と一緒に観察して共感して、子どもの「なんだろう」の疑問から鏡やライトの素材を用意し光の動きを試してみると鏡と瑞の屈折から色のある光を発見した。乳児クラスでは、室内を薄暗くしてサンキャッチャーにペンライトを照らし、光を目で追ったり影の動きを楽しめるような取り組みを行った。また、窓から入る日差しを利用したり、ジェル積み木の玩具にライトを照らし、光の反射や様々な色の気づきもあった。積み木を動かして試していたため、発見や驚きに共感して保育者も楽しむ。幼児クラスでは、手に光を照らして手のシルエットを見つけた。「いろんな手の形を試してみる」という発信から影絵を作れる環境を作成した。



0歳児が光や影の変化に興味を示す様子



光を当てることで反射して影に色がつくことを発見する様子



自分の手で影絵を作り出そうとする様子

まとめ

窓から入る自然の光を生かせる探究活動をテーマに、職員間で取り組みを考えた。取り組み後は『子どもたちがやりたいことを見つけ出し、保育者が活動のゴールや結果を決めない働きかけの行い方』や『子どもからの発見と探求意欲を深める素材選びの理由』『環境設定の振り返り』の共有を行った。子どもの興味や発見、つぶやきを通して問いを引き出すことが出来たか、活動の過程を見直す事で改善点に気づくことができた。また、光と影の発見から「(影が)いなくなった」の言葉に「一緒に探してみよう」と保育者が働きかけを行った事で、好奇心が広がり探求に向かったため、子どもたちからの提案や発見から探求が膨らむ事も学んだ。テーマの活動が広がり『試したい、もっと知りたい』という子どもの意欲が見られたため、保育者はカラージェル積み木を光にかざして見せたが、子どもの問いから素材を選んだり環境を設定していなかったため、振り返りによって改善や働きかけを職員間で学び合い実践していくことが課題。今後の活動として光の様々な色彩の感覚を味わい探求から製作活動に広げていきたい。



とうきょう すくわくプログラム

2024年度活動報告書

世田谷祖師ヶ谷大蔵雲母保育園



テーマ【 世界の文化 】

設定した理由・背景

・異文化経験のある子どもたちが在籍をしている環境の中で、言葉や文化の違いを受け入れ、興味関心を持って関わろうとする姿があった。また、世界の絵本を読み、給食の献立から外国を「もっと知りたい」と考えたり、発見を楽しむ姿も見られたため、子どもたちの問いを取り入れ、探求活動のテーマにした。

用意した環境設定

- ・手作りの世界地図や地球儀、国旗カードを用いて、クイズを提供したり、外国の絵本から異文化への興味に繋げる。
- ・購入した物品...プロジェクター、スクリーン、英語の絵本、地球儀、英語のカード

活動のあゆみ

活動期間：令和6年8月～令和7年3月

- ・8月1日～ 給食の献立のメニューの国に興味を持ち世界地図でどこにあるか探す。
- ・1月22日 毎週水曜日にオンライン英会話を始める。
- ・1月27日 地球儀を使ってフィリピンを探す。
- ・1月30日 自分の好きな国の絵を描いて発表。
- ・2月7日 世界地図を作る。
- ・2月12日 フランスの挨拶や食事などを調べる。
- ・2月21日 あくまのしっぽ遊びをする。
- ・3月 他の国にも興味を持ち調べたいと興味を

✿探究活動の実績✿

・8月の給食の献立テーマ【世界のお祭り・お祝い料理を味わいつくそう世界一周の旅】から、毎日各国の料理を食べることで、世界への興味が広がった。8月1日の献立がガーナだったため「(ガーナは)どこにあると思う?」という保育士の問いから、外国への興味が始まる。世界地図を用いて、本日の献立の国探しを楽しみ、知的好奇心が広がっていった。また、献立表に記載されている国旗を発見した子どもの影響を受け、クラスみんなで国旗を知り、覚えようとする場面がみられた。ワールドライブラリー絵本からも国旗を探したり、言葉の違いを発見して興味をもつ姿がみられ、簡単な外国語を伝えあう様子もあったため、世界の文化を掘り下げて探究しようと考えた。

・1月下旬より、オンライン英会話のレッスンを開始する。子どもたちの「先生ってどこに住んでいるの?」「フィリピンだよ」という問いからフィリピンという国に興味を持ったため、探求が広がるような環境設定を考えた。

・1月下旬には、地球儀を使ってフィリピンを探し、『どうやって行くのか』、『どの位離れているのか』と疑問から興味へと向かう。

・地球儀を見る中で、自分の知っている国を見つけたり、様々な国があることを知り、興味を持つ。

・2月上旬には、自分の気になった国を決めて国旗を調べ、絵を描いて発表し合う場を保育者が設ける。

・2月 自分たちで作った国旗を用いて世界地図を作る。

フランスに詳しい園児の会話からその国に興味を持ち、挨拶や有名な建物、フランスの食事について調べる。

子どもたちの「フランスの友だちって何をして遊んでいるのだろう」という問いから遊びについてみんなで調べる。

→『あくまのしっぽ』という日本のしっぽ取りのような遊びがあることを知り、実際に遊ぶ。

・3月 日本とフランスの様々な違いに気が付き、フランス以外にも自分の興味を持った国について、文化や言葉、食事や遊びに興味を広げた。



地球儀でフィリピンを探している様子



好きな国を決めて絵を描いている様子。



あくまのしっぽゲームをしている様子

まとめ

給食の献立から世界に興味を持ち、探求している姿を見て、世界の文化に繋げていく過程を保育者間で検討したが、子どもたちが自発的に調べようとしていたり、調べたものを友だち同士で追及している場面を見て、活動内容の充実を図っていきたくて考えていた。初めは挨拶や食事に注目をしていた子どもたちが、世界の遊びやゲーム、歌などに興味や関心が広がり、外国の言葉も学びたい意欲が高まってきたため、オンライン英会話の導入を行った。英会話のみのコミュニケーションが子どもたちの新たな探求に繋がっている。英語以外にも、園児の影響を受けフランスに焦点を当てて活動を展開させていったが、来年度からは、他の国に展開をして世界の文化を探究する活動に繋げていきたい。